



## 株式会社良品計画

# 本社サーバー群の災害対策強化へ データバックアップ環境を刷新 重複除外技術を使い既存のWAN経由でデータを複製



株式会社良品計画  
情報システム担当  
運用管理課  
手計 紀子氏

## 株式会社 良品計画

株式会社良品計画  
本社：東京都豊島区東池袋4-26-3  
設立：1989年  
資本金：67億円（2010年2月28日現在）  
営業収益：単独1427億円/連結1643億円（2010年2月期）  
従業員数：単独1218名（2010年2月28日現在）  
グループ会社：子会社17社、関連会社1社

### ■要件

データセンターから本社へサーバーを移設してIT部門のスタッフが管理することで、保守運用費を削減する。火災などの災害に備えるため、本社サーバーのバックアップデータを複製して遠隔地で保管できる仕組みを求めた。

### ■ソリューション

重複除外機能を備えたバックアップストレージシステムを活用し、バックアップデータをWAN経由でデータセンターへ複製する。WAN回線やバックアップソフトは、基本的に既存のものをそのまま利用して効率的な投資を行う。

### ■成果

保守運用を効率化しながら、計画通り災害対策を強化できた。ディスクベースのバックアップに変更したことにより、処理時間は最大で8分の1に、重複除外によってバックアップデータの保存容量は同20分の1に減少した。

### サーバーの本社移設に際して 火災などへの対策強化を検討

「無印良品」を中心とした専門店の運営をはじめ、店舗で扱う各種商品に関する企画・開発・製造・卸・販売を幅広く手掛ける良品計画。同社の生活雑貨や衣類・食品ではシンプルな美しさが追求されており、現在取り扱っているアイテム数は7000を超える。

個人消費が伸び悩む中、同社は収益力の強化に向けて数々の対策を行っている。IT分野では、2007年ごろからシステム開発手法を変革。IT部門が主体となってパッケージソフトを使わず自社開発で効率を高める仕組みを作り上げた。保守運用についても新しい発想に基づく効率化が求められていたという。

情報システム担当 運用管理課の手計紀子氏は「データセンターにサーバーを設置して保守運用するという基本的な体制についても見直すことにしました。保守運用にかかる費用が軽視できなくなっていたほか、トラブル対応などでサーバーを直接操作

するとき、センターへの人の移動や入館手続きに時間がかかることがきっかけでした」と語る。

対策として同社は2008年ごろ、できるだけ自社でサーバーを保守運用する方法を検討。ファイルサーバーや会計サーバーなど、重要なデータを保存しており、システム停止がある程度許容できるサーバーについては、本社サーバーールームへ移設して、IT部門のスタッフが保守運用する体制を目指す。

しかし、本社でサーバーを運用する方法には、災害対策の面で不安があった。免震プラットフォームの導入などでサーバーールームの堅牢性は強化できたが、火災のような災害が発生したときも、システムを復旧できるようにしておく必要がある。

そこで同社が選択したのが、新日鉄ソリューションズの提案による、重複除外バックアップストレージシステム「EMC Data Domain」を使ったバックアップ環境の刷新である。

同製品はディスクベースのバックアップストレージで、重複除外および

差分ブロック転送技術により最新のデータを遠隔地へ効率的に複製できる。本社が災害に見舞われたときは、複製したデータを使ってシステムが復元可能になる。

良品計画は、トラブルが少なく処理が高速なディスクバックアップ装置に以前から関心があり、新日鉄ソリューションズに相談を持ちかけていた。今回の災害対策ソリューションはその回答の一つという。

手計氏は「当社のニーズに合った提案をいただいたほか、対応したエンジニアの方々の技術力の高さが決め手になりました」と振り返る。

### 重複除外ストレージを使って 最新のデータを遠隔地に保管

プロジェクトは2010年から始まった。新日鉄ソリューションズは1月に、良品計画へのヒアリングを実施。移設の対象となるサーバーが10台6システムであることや、これまで培ったノウハウに基づいて、最適な製品モデルとディスク容量などを決めた。2月には発注が行われ、3月から4月前

半にかけて基本設計や詳細設計、機器構築を実施している。

Data Domainは、2010年5月中旬から部分的に利用を開始した。7月からはデータセンターに置いたData Domainへの複製をスタート。8月から全面運用を始めている。

新しい環境では、本社で稼働するサーバー群のデータを本社のData Domainを使って統合的にバックアップする。本社のData Domainはバックアップされるデータを常にモニターしており、重複しない差分のみをデータセンターに設置したData Domainへ転送する。

WAN回線やバックアップソフトは既存のものを使って投資を効率化した。WAN回線は帯域制御で夜間のみ利用帯域を広げ、昼間の通常業務への影響を回避している。バックアップソフトは、バックアップ先をData Domainに変更することで問題なく利用が可能になった。

サーバー移設プロジェクトそのもの

### ■コアテクノロジー

DR、レプリケーション、重複除外、既存の運用を生かしたバックアップ統合

### ■システム概要

- DR向けストレージ：EMC Data Domain DD630 (SATA 1Tバイト×7、RAID6)
- DR対象：6システム（プラットフォーム：Windows、Linux）
- バックアップソフトウェア：Symantec Backup Exec、CA ARCserve Backupなど
- 対象容量：約4.2Tバイト（非圧縮）

のは、良品計画が企画・実施したが、新日鉄ソリューションズはData Domainのサポートを通じて、プロジェクト全体を支えたという。

手計氏は「多数の部署が利用する会計サーバーでは、移設日程の策定に手間取り、計画より遅れて移設せざるを得ませんでした。しかし、新日鉄ソリューションズのサポートによって影響を最小限に抑えることができました」と語る。

### 処理時間は8分の1に短縮 データ量は20分の1に削減

災害対策の実現に加えて、新しいバックアップ環境は予想以上の成果をもたらしている。

まずディスクバックアップによる高

速化で、従来は最大8時間かかっていたバックアップ処理が約1時間で完了するようになった。重複除外の効果も大きく、データ保存容量は従来の20分の1に減っている。

また、テープ交換やトラブル対策など保守運用の負荷が軽減されたため、IT部門のスタッフは、社内活動などの別の業務に多くの時間を割り当てるできるようになった。

今後は、今回のプロジェクトで対象から外したサーバーの本社への移設などを検討していく。

手計氏は「新日鉄ソリューションズはシステム開発研究センターなどで常に最先端の技術を研究しています。新しい技術に基づく提案をこれからも期待しています」と語る。

### ■良品計画が実現した本社サーバー群DR(災害復旧)環境の概要

